

# 一般質問

## 聞いてみたいな、こんなこと

本定例会での一般質問は、12月1日から3日までの3日間行われ、20名の議員が、45項目について質問しました。その質問と答弁の要旨をお知らせします。

**一般質問とは？**  
議員が市の仕事全般について、市長などに報告や説明を求めたり、将来の方針等について質問することをいいます。  
一般質問は、各定例会の本会議で行われます。

### 統合に対し市民の意見は

合川 哲夫  
議員

小宮は「必要」戸倉は「時間をかけて協議」

**問** 小学校統廃合について戸倉及び小宮小学校を五日市小学校へ統合する問題について、多くの議員が質問している。さまざまな議論があり良い方向を見いだせればと考え、質問する。

① 平成22年9月定例会以後、地元住民に対し、意見交換や説明会を何回開催し、どのような意見が出たのか。

② その意見を踏まえ今後の統廃合にどう取り組んでいくのか。また、地域の方の思いをどの様に受け止め、どう汲み上げる考えか。

③ 小宮小学校は住民の方の了解が得られたが、母校が無くなる事は断腸の思いで決断された事だと思ふ。教育長はどう感じるか。

**教育部長**

① 戸倉・小宮小学校共3回開催し、戸倉小学校では、「小規模学校の教育でも問題ない」「学校は地域の拠点」「検討時間が短い」等の意見があった。小宮小学校では「子どもの教育を考えると、ある程度の規模は

必要」「教育環境を思い必要」等前向きな意見がでた。

② 戸倉小学校は地域や子ども達への影響を考慮し白紙に戻し、地域の窓口を通じて話し合う事とした。小宮小学校は今後、地域、教育委員会、関係部局で検討会議を組織し対応を図る。

**教育長**

③ 子どもたちが新学校で、元気な姿で力を発揮し、統合して良かったと思う事を一つ一つ見せていくしかないと思っている。

他に沢戸橋改修について質問した。



地域の人々の思いが詰まった校舎

中村 雅一  
議員

## 自転車安全教室の効果は

事故は前年より15件減少



**自転車安全利用五則を守りましょう。**

- ① 自転車は、車道が原則、歩道は例外**  
道路交通法上、自転車は軽車両と位置付けられています。したがって、歩道と車道の区別があるところは車道通行が原則です。
- ② 車道は左側を通行**  
自転車は、道路の左端に寄って通行しなければなりません。
- ③ 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行**  
歩道では、すぐに停止できる速度で、歩行者の通行を妨げる場合は一時停止しなければなりません。
- ④ 安全ルールを守る**  
■飲酒運転は禁止 ■二人乗りは禁止 ■並進は禁止  
■夜間はライトを点灯 ■信号を守る ■交差点での一時停止と安全確認
- ⑤ 子どもはヘルメットを着用**  
児童・幼児の保護責任者は、児童・幼児に乗車用ヘルメットをかぶらせるようにしましょう。

自転車安全利用五則

問 自転車の安全走行について  
① 歩道を通行する自転車は歩行者にも危険が多い。これは自転車に乗る人がルールを守らない点によることが多く、本市は、モラル向上の講習会、広報、啓発等を率先し継続的に行うべきではないのか。

総務部長  
① 自転車通行ルール等をホームページに掲載し啓発に努めている。小学校では自転車安全教室を、高齢者クラブ等の会員を対象に講習会を実施している。今後警察等と連携し講習会や

啓発活動を実施している側かあったか。  
③ 車を運転している側からも危険を感じるので、小学生や高齢者へは繰り返し講習会等を実施すべきではないのか。

啓発活動を継続的に行っていく。  
② 平成22年10月末現在、市内の自転車交通事故は75件で、前年より15件減少した。そのうち、小学生は8件で8件減、65歳以上は10件で5件減、これらは安全教室等の効果と考える。  
指導担当参事  
③ 今後も、学校、警察、保護者等と協力し、児童生徒や高齢者の自転車事故防止に努めていく。

他に市財政と税収入等について質問した。

山根トミ江  
議員

## るのバスのコース見直しは

都道29号線拡幅後に

問 公共交通の今後の方向性について  
平成22年9月に示された、あきる野市循環バス等地域公共交通検討委員会の内容について問う。

① 「るのバス」は22年度以降も1台で運行し、今までの通行できなかった地域への対応、一部コースの見直しも考えるとするが、具体的にはどのように見直しをしていくのか。

② 土、日曜日にも運行すべきと思うがどうか。  
③ 交通空白地域に対する新たな対策とは具体的にどのような運行方法を想定しているのか。

総務部長  
① 現在の利用実態の把握と道路網整備に伴うコースの見直しを検討する。要望のある折立地区では、都道29号線の拡幅工事完了時点で現行の草花コースの見直しを行っていく。

② 産業祭と夏まつりに土日特別運行をしたが、平日



拡幅が進む都道29号線

治会長と話し合い、方向性を出す。

他に公共施設使用料の軽減、横田基地米車機の騒音対策について質問した。

③ 高齢者などの交通手段確保のため、地域住民との協働による運行方法を町内会・自治会、タクシー会社などと連携し検討する。市場調査のため町内会長・自



たばたあずみ  
議員

## 学童クラブの増設は

今後の課題とする



児童館で遊ぶ  
子どもたち



問 保育園・学童クラブ待機児解消について  
昨今の不況の影響もあり、共働きを希望する家庭が増えている。保育園・学童クラブ待機児解消は緊急の課題であると考え、以下質問する。

① 本市が取り組んでいる具体的な手立ては。

② 公立保育園・学童クラ

ブ増設の考えは。  
③ 全児童対象の放課後子ども教室は、現在3校で水曜日のみである。学校数や開催日の拡大はできないか。

子育て支援・児童担当参事  
① 平成21年から5園で建て替え、民営化などにより130人の定員増を計画している。学童クラブは19年度から公共施設の有効利用や運用で145人の定員増を図ってきている。  
② 新たな公立保育園設置の考えはない。学童クラブについては今後の課題とする。

が、設置の際は公共施設の有効活用を優先したい。  
生涯学習推進担当参事  
③ 居場所の確保、協力者の負担増などから開催曜日拡大は難しいが、実施校拡大は保護者の積極的な姿勢を基に、児童館の役割を補完する形で進めていきたい。  
他に子宮頸がん・ヒブ・肺炎球菌ワクチンの助成実施、学習等供用施設のトイレ洋式化について質問した。

増崎

俊宏

議員

## 避難支援全体計画の策定は

平成22年度中に

問 安全・安心のまちづくりについて  
総務省消防庁は全自治体に対し、災害時要援護者への避難支援対策について調査し、その取り組み状況を公表している。それによると、自然災害で高齢者や障がい者等が逃げ遅れないよう、自治体が情報伝達の方法などを事前に定める避難支援全体計画を取りまとめるものであるが、期限の平成22年3月末になっても未策定である市区町村が37%にも上っているとのことである。そこで、以下について伺う。

① 本市の避難支援全体計画の策定状況は。  
② 災害時要援護者リスト及び個別計画の策定は。  
③ 救急医療情報キットの活用を考えているか。  
④ 市長の見解を伺う。

総務部長

① 現在見直し中の地域防災計画との整合性を図りながら、平成22年度中に策定



あきる野市総合防災訓練

され、大きなマイナス点だと感じた。今後、防災行政にてこ入れすべく、取り組んでいきたいと考えており、市民との協働のまちづくりを活かしていきたいと思う。  
他に図書に親しむまちづくりに関して質問した。

② 今後取りかかり、要援護者リストの作成は23年度中の整備を考えている。  
③ 21年度に配布を実施した増戸地区を除く残り6地区において、75歳以上の一人世帯の方を対象に今年度配布予定である。  
④ 防災行政の遅れを指摘  
市長



堀江 武史  
議員

## 高齢者の交通安全対策は

警察と連携し講習会を開催

**問** 高齢者の交通安全対策について  
高齢者ドライバーによる交通事故が増えている。市内でもアクセルとブレーキの踏み間違い、建物やガードレール等につける物損事故等が起っており、高齢者ドライバーの事故を心

配する家族も増えている。その影響なのか高齢者向けの自動車保険もここで値上げされるとのことである。そこで、本市としては高齢者の交通安全についてどのような対策を行っているか伺う。

**総務部長**

高齢者の交通安全について、本市のホームページ等で啓発や広報活動を行い、警察署や交通安全協会と連携し講習会等も行っている。また、高齢者には、自動車免許自主返納制度があり、本市は、この制度に協力するための独自制度として、のバスの無料バスを発行している。平成21年度は9件発行しており、高齢者の交通安全対策に寄与している。また、住民基本台帳カードの無償発行を実施できるよう整備を図る。なお、21年度の免許証自主返納件数は25件であった。この制度を普及させることは、高齢者の交通事故減少に役立つので、引き続き協力していきたい。



交通安全講習会

## 第68回多摩国体の開催日は

平成25年9月28日から

岡野 悦史  
議員

**問** 地域スポーツ振興について

国は、平成22年8月に文部科学省でスポーツ立国戦略を策定し、スポーツ基本法及びスポーツ庁の検討を始めるとしている。また、東京都は22年1月には、10年後の東京への実行プログラム2010を策定し、スポーツ振興を進めるとして



千葉国体での東京都選手団

- いる。そこで、以下について伺う。
- ① 国のスポーツ戦略について。
  - ② 東京都のスポーツ振興について。
  - ③ 第68回東京多摩国体について。

### 生涯学習推進担当参事

- ① 新たなスポーツ文化の確立を目指し、人々が安全・公正にスポーツを行う環境確保及び整備をする。
- ② スポーツを通じて次代を担う子どもたちに夢を与えることを目標に掲げ、スポーツ推進校の指定、地域スポーツクラブの普及及び

全日本や世界レベルで活躍するアスリートの育成などを目指している。

- ③ 多摩地域を中心とした国民体育大会は平成25年9月28日から10月8日までの開催が決定し、愛称を「スポーツ祭東京2013」と定め、準備とPR活動を展開している。本市では、ソフトボール少年女子、自転車ロードレース成年・少年男子の2競技が開催される。また、23年度から市民球場と市民運動広場を改修する予定である。

**他に地域振興について質問した。**



松原 敏雄  
議員

## 雨水利用への支援策は

モデル的に補助を導入

**問** 環境の保全等について

本市は、環境都市あきる野を標榜している。「流せば洪水、ためれば資源」と言われている雨水について、環境省は、エコハウスモデル事業で太陽、風、水などの自然エネルギーを最大限利用するとしており、当市本庁舎は、トイレの浄水に雨水を利用している。そこを伺う。

① 本庁舎の雨水利用の効果と評価は。

② 雨水利用について本市の方針は。

③ 環境教育の一環として、

各学校に雨水貯留タンク設置の考えは。

④ 雨水利用への支援策の考えは。

**環境経済部長**

① 庁舎屋上の雨水をトイレ洗浄水、外構植栽の散水、庁用車の洗車に利用している。水道使用料に換算すると年間約70万8千円となり、地球環境への負荷軽減になっている。

② あきる野市環境基本計画及びあきる野市第2次地

球温暖化防止対策実行計画

に位置づけ、雨水の活用と雨水利用設備の導入を検討するものとしている。

**教育部長**

③ 事例を研究・検討し、取り組んでいきたい。

**環境経済部長**

④ 家庭用の雨水貯留槽の補助について、平成23年度からモデル的に導入したい。

**他に市民表彰について質問した。**



家庭用雨水貯留タンク

## ふるさと工房の継続運営を

平成23年夏までに方向性示す

田中 千代子  
議員

**問** ふるさと工房の運営について

当工房は、現在、国の雇用再生特別基金事業等を活用し、平成21年度から23年度までの事業として軍道紙保存会で運営されている。軍道紙の保存伝承や、子どもたちが日本の伝統工芸を学び体験学習ができる場所として、継続運営を求める



伝統工芸体験ができる「ふるさと工房」

声が多いことから以下について伺う。

① 24年度以降の運営について。

② 体験学習のできる教育の場として、都内全域の小学校が利用していることから、東京都教育委員会に対し支援の協力依頼をしてはどうか。

**環境経済部長**

① ふるさと工房では、軍道紙保存会が卒業証書や名刺、染色といった二次製品の研究開発をはじめ、営業担当も置くなど、需要拡大による経営の安定化や管理運営の基盤強化に向け、自

立への道歩んでいる。このことから24年度以降の運営については、工房の継続を前提とし、23年夏頃までに方向性を示したい。

**教育部長**

② ふるさと工房は、自信を持って日本中に紹介できる価値あるもの。改めて、ここで学べる体験学習や伝統工芸のメニューをパンフレットにまとめ、これを手

に東京都の教育委員会へ行き、説明や営業活動をする必要があると思っています。

**他にヒトT細胞白血病ウイルス型(HTLV-1)対策について質問した。**